

第12回総合特別区域評価・調査検討会 議事概要

日 時：平成24年6月22日（金）13:00～13:25

場 所：永田町合同庁舎1階 第一共用会議室

出席者：有識者 八田座長、武田委員、深川委員、藤田委員

- 国際戦略総合特区の対象申請案件について、総合特別区域評価・調査検討会委員によるヒアリングを行った。
- ヒアリングは、冒頭10分間で申請者側から申請特区内容についての説明を行い、後半15分間で委員との質疑応答を行った。

《国際戦略総合特区》

○「コンテンツ産業国際戦略総合特区」（京都府等）に係る主な質疑

藤田委員 京都におけるコンテンツ産業の経済波及効果の見通しについて、具体的に説明いただきたい。

申請者 例えば、ポケモンについては、ゲームソフトだけだと1000億円の売上げしかないが、関連商品を合わせると約3兆2000億円規模になるなど、この分野は大きな経済波及効果が見込める。

武田委員 国際戦略特区としての規制緩和の提案が、主として外国人出入国管理関係となっている理由は何か。特区に限定したコンテンツのフェアユースについて、具体的にどのように実現しようとしているのか。

申請者 規制緩和については、国際共同合作等を目指しており、海外のクリエイターが来日する際のハードルを下げたいと考えている。コンテンツをデジタル化することにより、創作活動の段階までは比較的自由に使用できるように著作権を緩め、ビジネスユースになる時には、著作権を有している方と契約を締結することを考えている。

深川委員 海外のクリエイターが京都に数カ月滞在する場合、ハイコストになりがちだと思うが、バックアップ体制をどのように考えているのか。また、海外へのマーケティングをどのように考えているのか。

申請者 町家に泊まっていたり、ローコストな環境の中で海外の映画祭に出品するような作品をつくっているクリエイターも現れているので、今までの経験を生かし、サポートしていきたい。また、映画などマーケティングが弱い分野もあるが、ゲーム分野のように強い分野もある。クロスメディア化されることにより、ノウハウをメディア間で共有したいと考えている。

八田座長 京都の大学で映画とかアニメをつくりたいという外国人留学生はどのくらいいるのか。また、彼らが来日する際の最大のネックは何であり、今回の総合特区の提案にどのように反映しているのか。

申請者 詳細な人数は把握していないが、映画については特に多くの希望がある。ネックとしては、先程ローコストな環境と説明したが、それでも我が国の生活費が割高であることがあげられる。長いスパンで勉強したい方は、実習も兼ねたアルバイトを希望する場合もあるので、就労要件の規制緩和を提案している。

以上